

## 34期 例会報告

### 9月例会（9月18日） 未来展望「ITCの未来を考える」

第34期最初の例会であり、湯浅新会長がビジネスを進め、新しいITCにむけての展開を予測させるプログラムに入った。未来展望「ITCの未来を考える」ディスカッションで、河津さんがPLをつとめ、7名の参加者は自由に意見を述べ合った。

ひいてはITCの未来像ということにつながるのだが、今現状での山積する問題を掘り下げて、向かうべき方向性をさぐるという進め方であった。現在の問題とは「国際会計収支への疑問点」「ITC本部を日本に移転してはどうか」「国際でいうように日本リージョンを三分割すべきか」という点にしぼっており、時間の関係で、おおむね目前の問題点の確認というところで終わった。

各々の問題が解決に向かい、そして本当の意味で、展望ある未来像がかかげられるITCでありたいとの願いを込めて、全員が臨まれたことと思う。

### 10月例会(10月16日) 机上の空想ストーリー「ロミオとジュリエット」SAKAEバージョン

今月のプログラムの企画は、ある作品を演じるのではなく、座ったまま、言葉のみで展開させていくというものであった。しかもストーリーを自分独特の発想で変えていくというもので、原作とは異なる話の展開が求められる。

作品は、「ロミオとジュリエット」「桃太郎」「かぐや姫」の3点。参加者の個性や想像力にまかせ、自由な発想で話が受け渡しされていくので、思わぬ展開に笑いが絶えない。が話のボールを受けた人が、それを次に手渡すまでの緊張感は笑いどころではないだろう。今までにない面白さがあった。準備がいらなだけに、終わると今までにない疲れと、ほっとした安堵感が広がった。

### 11月例会(11月20日) 持ち出し例会「明治のクールジャパンをたずねて」

今期の持ち出し例会では多治見の「現代陶芸美術館」（セラミックパーク MINO）を訪れた。緑の中に紅葉の赤、黄の混じった秋たけなわの風情である。

「超絶技巧！明治工芸の粋」というテーマで160点以上の作品展示物がギャラリーに並ぶ。「七宝、金工、漆工、薩摩、刀装具、自在（虫、かに、えび、など体の各部を自由自在に動かせる）、木彫、象牙彫、印籠、刺繍絵画」などまさに明治の粋を集めている。

明治6年のウイーン万博を皮切りに、明治政府が作家や職人に費用を援助し、大作や名品を作らせ工芸作家の支援をした。その後軍事への出費も多くなり、衰退していく。

江戸から続く明治の工芸品は欧米に流出し、外国のコレクターに高く評価され、大切に保管されていたものである。技術の緻密さ、繊細さは絶妙で、一堂に集められたこの展覧会では、一つ、一つを見ていくたびに、ため息が漏れるほどの感動を与えられた。美術品は心を癒し安らぎを与え

るだけでなく、盛んに創造し、革新されることで人を活性化し、国の活力の源にもなるというある画家の言葉を、この明治の工芸品に当てはめてみたい。

## 12月例会（12月18日）想いを伝えよう「手作りのクリスマスカード」

今年の締め12月例会のプログラムは「クリスマスカード」作りの企画であった。

2枚のカードの用意があり、その一枚には、くじで自分の番号を引き、次の番号の人へ想いをしたためて渡すというものである。感謝を伝える文、ユーモラスな文、呼びかけの文など、渡す側、受ける側共に人柄が伝わってくる。

もう一枚のカードには、スパンコールや切り絵、シールなどを自由にはって飾り、オリジナルカードを作る。こうした方が、ああした方がと念が入る。

制作に没頭した後の皆のほころんだ、喜びに溢れた顔が並ぶ。

こうして出来栄えを見せ合い、笑いあって、会場が幸せな雰囲気にも包まれる中、今日の話題として、「クリスマスに思うこと」を一人ずつ語った。

クリスマスグッズやお菓子もお仲間に、素敵なミニクリスマスパーティーを味わうことができた。



## 1月例会（1月15日） 私だけの<すきノート>

新しい年をフレッシュな気持ちで迎えるのに相応しいプログラムでしょう。

自分の<好き>を見つめなおしてみる例会になった。

谷川俊太郎の<すきノート>を朗読し、同じテーマである「音楽」「風景」「言葉」などからそれぞれ選び、<すきノート>を作成するものである。

若い時代には「好きなもの」がたくさんころがっているはず、けれど年を経ると果たして何が好きなのだろうか、一息いれてしまう。

昔好きだった事を忘れてしまったり、遠ざかってしまっている。

胸をときめかせる機会が少なくなったという人もあるだろう。

自分を見つめなおす糸口になったかもしれない。

さあ 栄クラブの皆さん、今フレッシュなエネルギーを沸かせていますか。

## 2月例会（2月19日）「(株)ITC KIDS 採用試験」

プログラムの時間になると、会場は素早く模擬面接会場に早変わり。就活に励んでいる二人の応募者が、順に入社面接を受けるという設定である。

「(株)ITC KIDS」は、新しい幼児教育を目指す会社である。子育てに悩んだり、より良い子育てを望むママさん達の力になりたいという目標をかかげている。優れた人材を求めようとする会社は、熱心に難解な質問攻めで、応募者も力がはいる。四苦八苦しながらも入社への意欲を見せて挑み、質問に答えていった。応募者も会社側も模索しながら、いつもとはひと味異なる緊張感に包まれていた。お疲れさま！！

### 3月野外例会（3月18日） 京都「美味礼賛」



え～っ!! 和菓子づくり? はじめて～ おもしろそう～  
なんて声が飛び交う野外例会。 場所は京都。

京都の伝統和風建築を見学の後、美味しい京料理に舌鼓をうち  
そして京の生菓子づくりの体験という楽しそうな企画である。

まず二条城の南、重要文化財「二条陣屋」を訪ねた。二条城や京都所司代を訪ねる地方小名を迎える宿泊所であり、防火や敵に備えた数多くの工夫がなされているのが面白い。

近くの襦袢の美術館も訪ねたが、これらの建物は時間をかけ、心ゆくまで味わうことが出来た。

最後に和菓子の店「亀谷良長」にて手作り和菓子教室に参加する。生菓子を手のひらで巧みに作るお手本を見せてもらい、各々苦心惨憺。つい笑いがこみ上げる形になったり。

上品で格好良くお店に並べるのは、なんと難しいこと。 和菓子は繊細で～す。

### 4月例会（4月15日） 音楽と健康 I 「音楽療法の視点から」

講師 猪狩 裕史氏（同朋学園 名古屋音楽大学）



今月の例会は久しぶりに講師をお招きした。

音楽を通して本当の健康を維持すること、音楽の持つ力で今病んでいる人達や高齢の方達の気力向上、支援を試みることが出来るというお話しをお聞きした。

また私達も先生の楽器の音にあわせ、声を出し楽しく体を動かしてリラックスする場になった。音色によって自然に体を動かすなどの聴覚リズムや、メロディーのイントネーション療法は、脳を刺激し、脳卒中などで衰えた言語機能の回復を促すことができるそうだ。

介護のお年寄りを抱えた方や、これからの我々の生活にも大きく役立てることが出来る。20名以上のゲストの皆様の参加で、盛況な中にプログラムを終えた。

## 5月例会（5月20日） 音楽と健康Ⅱ

先月の講演「音楽と健康」に続き、今回は私達が日々の生活に音楽の力をどのように生かしていくかをテーマにしたプログラム「音楽と健康 2」

まず1部は「音楽で1日を豊かにすごしましょう」 一日のどんな時にどんな音楽を聞きたい？聞くといひ？皆で1日の音楽のタイムテーブルを作ってみた。会員の選んだ曲、プログラム委員会からの提案曲も紹介され、納得したり、知らない曲に出会ったり、音楽を生活に取り入れるヒントを得た。

2部では音楽のイメージ効果について、一連の写真をBGMを変えて見たときのイメージの違い、次に同じ曲を演奏法を変えて聞いたときのイメージの違いを体験、音楽によってこんなにも抱くイメージが変わるといふのも面白い、それにも増して興味深かったのは各自の中で違ったイメージがどんどん膨らんでいった事。

発表者も一層雄弁になる。

3部は実践編、簡単な打楽器を使って皆で演奏、テンポの良い「カルメン前奏曲」に合わせて身体でリズムを取るとどんどん気持ちののってくる。次は皆で合唱、「負けないで」で鼓舞し合い、「見上げてごらん夜の星を」をそれぞれの思いを胸にしつとりと歌い上げ、最後の「ふるさと」が終わるとパワーポイントの画面には「皆様にたくさんの幸せが来ますように」の文字が……。皆の笑顔、心もあつたかくなり、元気も出て、和やかな雰囲気が満ちていく。その時 音楽の力の素晴らしさを皆が改めて感じていたような……。余韻にひたりながら、プログラムが終わった。

## 6月例会（6月17日） 役員就任式 & 「チャップリンに学びましょう」

6月例会は今期のしめくくりです。会長をはじめ、役員や委員会のこの1年間の報告と今期役員の、労い、お礼、次期選出役員への期待でインスタレーションを締め、プログラムに入る。テーマは「チャップリンに学びましょう」

チャップリンの功績の中でもとりわけスピーチに焦点を当てたものであった。チャップリンはもともとスピーチが苦手な人だったそうだが、彼の作品「独裁者」の中でヒトラーに扮した彼が、大衆の前で平和について素晴らしいスピーチをし、大衆の大喝さいをあげる場面が、パワーポイントにより映し出される。昔のヒトラーの演説の映像でも、高揚した大群衆の姿があり、それがかぶさってもくる。このように人を惹きつけるメッセージは、良くも悪しくも時代を動かすほどのものになる。

## 即興スピーチ

まず画面に出されたいくつかの言葉から会員が選択し、即興のスピーチを作る。チャップリンの演説に刺激を受けたこともあり、会員から、聴衆を共感させ、自分の世界に連れていってくれるような素晴らしいスピーチを聞かせてもらった。穏やかなこの時代だからこそ癒しのスピーチといえる。

最後は会員で作った、栄クラブの歌の合唱。

ベートーベンの「歓喜の歌」の曲に合わせ、フレーズなどを募集し、二番まで作成した。これを会員一同声高らかに歌って、無事今期は終わった。

ゲストで来られる他クラブの皆さんに、いつかご披露できるかもしれない。